



【調査速報】 中世の屋敷跡を発見!!—大津市 里西遺跡—

【資料紹介】 栗東市 高野遺跡出土 小型海獣葡萄鏡

【展示案内】 秋季特別展「黎明—東西文化が共生した先史時代の近江—」

【展示案内】 レトロ・レトロの展覧会「東山道を探る～道沿いの生業～ 草津市 黒土遺跡」

【資料紹介】 中江藤樹書跡「自反」(滋賀県立琵琶湖文化館蔵)

【展示案内】 ロビー展示「ドングリからコメへ—淡海の弥生文化は水辺から始まった—」



【調査速報】

中世の屋敷跡を発見!!

おおつし
大津市

さとにしせいせき

里西遺跡

—道路建設に伴う発掘調査—



調査地全景 (北西から)

(写真提供: 滋賀県)



里西遺跡

里西遺跡は県南部の大津市里地先に所在する遺跡で、琵琶湖から流れ出す瀬田川の東側にあたります。遺跡の北側には瀬田川へと合流する大戸川が流れ、南側には田上丘陵が連なっています。遺跡が立地する場所は、大戸川などの河川によって形成された田上平野にあたり、現在ものどかな水田が広がる場所です。これまでの調査では、縄文時代晩期の溝、平安時代の掘立柱建物などが確認されています。

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県大津土木事務所が実施する南郷桐生草津線補助道路整備事業に伴う発掘調査を令和2年度から実施しています。

令和3年度6月までに実施した発掘調査の結果、鎌倉時代から室町時代(13世紀～14世紀頃)にかけての屋敷地が見つかりました。この遺跡の周辺では、南側に位置する関津遺跡で平安時代後半から鎌倉時代にかけての集落が確認されていました。今回の発見によって、田上平野における開発の様相が新たに明らかとなりました。

【詳しくは次のページ】

大津市 里西遺跡

●発見された屋敷地

調査では、くかくみぞ 区画溝に囲まれた屋敷地が南北に並んで2か所見つかりました。見つかった区画溝は、いずれも屋敷地の東側にあたり、西側は調査範囲外へと広がっています。北側の屋敷地については、南北の規模が約 26mであったことがわかりました。区画溝は、幅 0.6m～ 2.3m、深さ 0.3m～ 0.6mの規模があります。この遺構よりも古い遺構が重複して見つかることから、屋敷地が営まれるなかで掘削されたと考えられます。

●見つかった遺構

それぞれの屋敷地内では、ほったてばしらたもの 掘立柱建物の柱穴とみられる遺構を数多く確認しました。屋敷地内の北側では、これらの遺構が高い密度で分布しており、建物を何回も建て替えながら維持していたものと考えられます。掘立柱建物として把握することができたのは、北側で 3 棟、南側で 2 棟です。このうち比較的全体像がわかる北側の1棟の規模は、南北 8m・東西 6.6m以上（4 間 × 4 間以上）でした。柱穴のなかには、柱が沈むのを防ぐために平らな面をもった石を据えたものも多く見られました。弱い地盤の場所に建物を建てていた人々の苦労がうかがえます。

●今回の発見で明らかになったこと

今回の調査により、調査地周辺での開発が鎌倉時代に始まっていたことがわかりました。北側の調査区ではかんがいすいろう 灌漑水路とみられる溝も見つかり、屋敷地や水路を整備して開発を行っていた様子が見えてきました。



北側の屋敷地で検出した柱穴群（北西から）



南側の屋敷地（北から）

（写真提供：滋賀県）



【資料紹介】

栗東市 高野遺跡出土 小型海獣葡萄鏡

高野遺跡は、栗東市六地藏に所在しています。令和元年度調査において、奈良時代の溝跡から小型海獣葡萄鏡が出土しました。この型式の鏡は、滋賀県内では3例目の発見となりました。

出土した小型海獣葡萄鏡は銅製で、直径は約 6.2 cmです。きょうはい 鏡背には、伏した獣の姿やかいじゅう 海獣と呼ばれる獣が4体、簡略化された6個の房を持つ葡萄唐草文などが描かれています。まほうめん 鏡面は錆に覆われています。

この形式の鏡は全国で 30 面以上が見つかり、溝跡や川跡で見つかることが多いため、水辺の祭祀に用いられたと考えられています。高野遺跡のものも溝跡から出土していることから、祭祀に用いられた鏡だと考えられます。



小型海獣葡萄鏡の出土状況



小型海獣葡萄鏡（保存処理後）

（写真提供：滋賀県）



協会 HP

黎明 —東西文化が共生した先史時代の近江—

日本列島にさまざまな地域色をもって展開した縄文時代の土器文化。その地域色の広がり、伊勢湾と若狭湾を結ぶラインを境界とするケースがしばしば見られます。現在の東西日本で方言や習俗が異なるのと似た現象がうかがえそうです。

そうした縄文時代は、稲作を伴う「遠賀川系土器」文化が西日本に普及したことで終焉し、先史時代に一大エポックを築きました。この遠賀川系土器文化の広がりも、まさに伊勢湾と若狭湾を結ぶラインを境界としています。この境界に近いところに位置する近江では、西日本に広がる弥生文化をベースにしなが、東日本に残る縄文的文化の影響も色濃く受容して、両文化が複雑に共存する地域文化を展開します。

今回の展示では、公益財団法人滋賀県文化財保護協会が50年にわたって発掘調査した主な遺跡を中心に、縄文～弥生時代の近江文化を紹介します。



上出A遺跡（近江八幡市） 土器棺墓として用いられた土器

【開催期間】 令和3年10月9日（土）

～令和3年11月21日（日）

【開館時間】 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】 開催期間中の月曜日

【入館料】 大人 900(690)円、高大生 640(470)円、
小中学生 420円(310円)、
県内高齢者（65歳以上）460円(350円)

※()は20人以上の団体料金。

※「信長の館」との共通券 大人 1,190円、高大生 720円

小中生 430円、県内高齢者（65歳以上）850円



博物館 HP



竜ヶ崎A遺跡（近江八幡市）
東海地方の影響を受けた土器

（写真提供：滋賀県）

やむをえず、会期を変更する場合がございます。最新情報は当館ホームページでご確認下さい。ご入館の際はマスクを着用し、手指の消毒にご協力ください。
発熱・カゼ諸症状のある方は来館をお断りしております。

【お問合せ】 滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678

TEL:0748-46-2424 Fax:0748-46-6140

URL: <https://www.azuchi-museum.or.jp/>

東山道を探る ～道沿いの生業～ 草津市 黒土遺跡

「レトロ・レトロの展覧会 2021」は、発掘調査の成果速報展として開催しています。今回展示する黒土遺跡では、東山道沿いで古代の人々の生業が垣間見られます。出土した土器や金属器生産に係る遺物などを写真パネルなどとともに展示しています。ぜひ、ご覧ください。

【展示期間】 令和3年10月18日（月）

～令和4年3月31日（木）

【開館時間】 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

【休館日】 土・日・祝日・年末年始

【入館料】 無料

【会場】 滋賀県埋蔵文化財センター 1階ロビー（滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2）

（写真提供：草津市教育委員会）



展示案内



奈良時代の長舎建物（正面奥は比叡山）

【資料紹介】滋賀県立琵琶湖文化館所蔵品紹介

中江藤樹書跡「自反」(滋賀県立琵琶湖文化館蔵)

なかえとうじゅ じぼん
中江藤樹(1608～1648)が「自反」の二文字を大きく自筆し、解説を書き加えたものです。藤樹は現在の高島市に生まれ、「近江聖人」と呼ばれる儒学者。「自反」は自反慎独ともいい、すべての事について自分自身に深く反(かえ)りみて、独善を慎むという思想です。藤樹はこの「自反」の教えを重んじました。自己反省を徹底すれば、人間が本来的に持っている「良知」の力が発揮できるということでしょう。藤樹は「自反」の習慣が身に付けば「悪意の人に対しても、心が逆立つ気持ちは自ずと無くなる」とも教えています。現代生活にも役立つアドバイスかもしれません。

本品は、地域連携企画展「**渋沢栄一と中江藤樹・熊沢蕃山**—高島市ゆかりの文化財とともに—」で出品公開されます。

【**展覧会名**】琵琶湖文化館開館60周年・史跡藤樹書院跡指定100周年記念展

「**渋沢栄一と中江藤樹・熊沢蕃山—高島市ゆかりの文化財とともに—**」

【**開催期間**】令和3年10月22日(金)～令和3年11月14日(日)

【**休館日**】毎週月曜日、11月4日(木)

【**会場**】

○第1会場 高島市藤樹の里文化芸術会館 展示室1(高島市安曇川町上小川106)

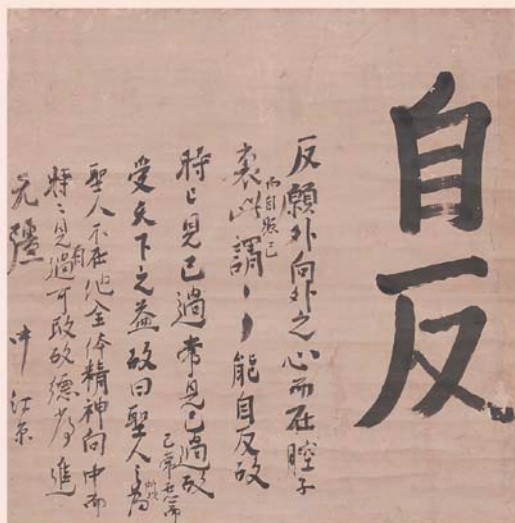
【**開館時間**】午前9時30分～午後4時30分 【**観覧料**】無料

○第2会場 近江聖人中江藤樹記念館(高島市安曇川町上小川69)

【**開館時間**】午前9時～午後4時30分 【**観覧料**】高校生以上300円(20人以上の場合200円)、小・中学生無料

【**主催**】滋賀県、滋賀県立琵琶湖文化館、高島市教育委員会【**お問合せ**】滋賀県立琵琶湖文化館(大津市打出浜地先)

Tel:077-522-8179 Fax:077-522-9634 <http://www.biwakobunkakan.jp/>



中江藤樹書跡「自反」
(滋賀県立琵琶湖博物館蔵)

新型コロナウイルス感染症の状況により、やむをえず、会期を変更または中止する場合がございます。最新情報は当館ホームページでご確認ください。



文化館HP

【**展示案内**】滋賀県埋蔵文化財センター ロビー展示

ドングリからコメへ—淡海の弥生文化は水辺から始まった—

ドングリが主食の縄文時代から稲を栽培し、コメを食するようになった弥生時代へ。滋賀県では、どこから稲作が始まったのか。それは、琵琶湖のほとり。

琵琶湖湖岸や水辺の近くに集落を営み、コメを食べた始めた弥生文化の様子的一端を土器や木器を中心に展示し、紹介します。



出土した炭化糲(もみ) (川崎遺跡)



湖岸の弥生集落(赤野井浜遺跡)



溝に囲まれた集落(赤野井浜遺跡)

(写真提供：滋賀県)

【**主な展示遺跡**】烏丸崎遺跡、赤野井浜遺跡、湯ノ部遺跡、川崎遺跡ほか

【**主な展示物**】弥生土器、縄文土器、石器、木器、初炭化物、クルミ、アワ等

【**開催期間**】令和3年9月27日(月)～令和4年7月8日(金)

【**開館時間**】午前9時～午後5時(入場は午後4時30分)

【**休館日**】土日祝日、年末年始 【**入館料**】無料

【**会場**】滋賀県埋蔵文化財センター 1階ロビー
(滋賀県大津市瀬田南大萱町1732-2)

【**お問合せ**】滋賀県埋蔵文化財センター

Tel:077-548-9681 Fax:077-548-9682



滋賀県埋蔵文化財センターHP